

# エコトーンとしてのトランス・ランゲージングが もたらすもの

## —日本と北欧を移動する若者の会話事例からの考察—

奥野由紀子（東京都立大学）  
yukokuno@tmu.ac.jp.

### 【要約】

本研究は、自然界の陸地と水面や森林と草原などの二つの異なった空間が交差する場所を指す「エコトーン(Ecotone)」での現象を異なる言語と言語が同じ会話内で用いられるトランス・ランゲージング(Trans langaging)の現象を結びつけ、日本と北欧（デンマーク・スウェーデン）を移動する若者の2つの会話事例を観察し、エコトーンとしてのトランス・ランゲージングもたらすものについて、考察する。

### 1. はじめに

エコトーンとは、陸と水域、森と草原など二つの異質な環境の移行帯（推移帯）であり、それぞれに生息する生物群集が接触する空間を意味している(森本 2002)。生物界では、生物の分布が重なりあい、生物多様性がきわめて高くなる空間として注目されている(佐野 2005)。

植物学者でベネズエラの日本語教師会の会長でもある野沢真吾氏は、この生物学のエコトーンという概念を言語学におけるトランス・ランゲージング（以下、TL）の現象の比喩として用い、思考メソッドとして「エコトーン」を提唱した<sup>1</sup>。松田真希子氏もエコトーンの代表として川と海の境界を指す「汽水域」という概念を用いて、南米日系人の言語使用特性について言及している<sup>2</sup>。

TLは、複言語話者が持つ全ての言語資源を「言語の境界線を超越してひとつのつながったレパートリー」（加納, 2016:3）と肯定的に捉え、複言語話者がコミュニケーションの可能性を最大限にするために自然に言語を交差して使用する流動的な言語行為とされる（García, 2009; García & Wei, 2014）。TLの場合では、社会的・政治的に定義された名づけられた言語間の境界を注意深く守ることを気にせず、話者のすべてのレパートリーを展開（Otheguy, Garcia, & Reid 2015:281）される。TLは社会的公正（特に、言語間のヒエラルキーの再考）という考えに基づき、積極的に未来を創ることを意識した活動であるとも考えられている（熊谷・佐藤, 2021:70）。

---

<sup>1</sup> 「汽水域とエコトーンの魅力：自然界の交差点で何が起きているのか」「移動基盤社会デザインに寄与する範生語ネットワークの国際共同研究」 松田真希子代表オンラインセミナー2024年7月26日

<sup>2</sup> 「日本語の汽水域—南米日系人の言語使用特性と使用意識から見えること—」『日本語・日本語教育研究会』第16回研究大会講演 2023年7月15日

筆者は 2023 年にデンマークのフォルケ・ホイスコレ<sup>3</sup>へ留学し、全寮制の生活の中でデンマーク語と英語（留学生の場合はそれに加えて L1）を日常的に用いる若者たちと生活を共にしていた(奥野 2024)。本研究は其中で出会った特に日本と北欧を移動する若者の会話に着目し、会話の中で、複数の言語をどのように使用しているのか、その様相や、言語選択の要因などを考察し、エコトーンとしての TL が何をもたらしているのかについて考察したい。

## 2. 対象者と調査方法

本研究では、二つの会話事例をもとに考察する。二つの事例ともにホイスコレで出会った日本語を L1 とするコーキ（仮名）が対象である。コーキは、L2 として英語を用い、大学ではデンマーク語を専攻している。ホイスコレでは、主に英語を用いていたが、デンマーク語も日常的に用いてデンマーク人の同級生とコミュニケーションをとっていた。英語のレベルは CEFR<sup>4</sup>での B2 レベル、デンマーク語は B1 レベルである。

一つ目の事例はコーキの友人でスウェーデン語を L1 とするコルとの会話である。コルは、英語が L2 で日本語を大学で副専攻として学んでおり、日本への 1 年間の留学経験がある。コルの英語のレベルは C2、日本語は B1 レベルであった。コーキとコルは日本の大学で出会い、コーキがデンマークのホイスコレ滞在中に会いに来ていた。二人の使用言語は英語と日本語とときどきスウェーデン語やデンマーク語という具合であった。二人の会話を録音して送ってもらうよう依頼し、筆者が文字化を行った後、スウェーデン語部はコルに文字化を依頼し、英語訳をつけてもらった。コーキとコルそれぞれに言語選択や言語使用意識についてフォローアップインタビュー(以下、FI)を行った。

二つ目の事例はコーキとデンマーク語を L1 とするクリスとの会話である。コーキとクリスはホイスコレで共に学んだ友人で、クリスは日本や日本語に興味があり、ホイスコレ修了後に、来日してコーキを訪れ、そのときの二人の会話を筆者も側で聞きながら録音したものである。クリスは英語が C2 レベル、日本語は挨拶ができる程度であった。クリスに文字化を依頼し、デンマーク語と英語の使用状況や、トピックごとの言語選択について分析を行った。

## 3. 結果と考察

### 3.1 事例 1：日本語 L1 話者とスウェーデン語 L1 話者の会話事例

この事例は、英語と日本語とスウェーデン語による会話である。コーキを (K)、コルを (C) で表示する。トピックは日本語方言の話から、言語の勉強方法についてであった。コーキがまず、方言について話そうとトピックを提示し、コルの日本語が関西弁であることを伝え、コルは文法と単語は教科書で習ったが発話スタイルについては、日本の関西の友人から学んだという内容について話している。その中で、英語、日本語、スウェーデン語の使用が見られた。

K1: Let's talk about a dialect

C1: Yeah

<sup>3</sup> 国民のための全寮制の成人教育機関。「人間・市民としての人格形成」の場としての学校

<sup>4</sup> 外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR: Common European Framework of Reference for Languages)

- K2: コルの日本語はどっちかというに関西弁、大阪に住んでいたから
- C2: でも僕が多分ノーマルな日本語やから、
- K3: たしかに
- C3: でも一、多分教科書からは多分習ったやつは多分
- K4: そんなあまり使えない
- C4: いやでも、僕では、その教科書からは多分、(あんまり使えない) 文法と単語は覚える、  
でもそのスピーキングスタイル、like 話し方
- K5: like a normal conversation?
- C5: うん。Ja precis. Asså typ Ehh.. När man pratar så tror jsg typ att ehh.. att ehh... man plockar  
mycket från kompisar. T.ex. första gången... såhär ord och sånt...  
(たしかに、話すときは、友達の会話から拾っている感じがする、友達から多くを学んでいる。たとえば、はじめてこんな単語がでたようなとき)
- K6: Mm.
- C6: Ehh... Sjælvklart ord får man såhär ehh....(もちろん、拾った単語はこんなもの...)
- K7: You need some impress
- C7: たぶん教科書は、たぶんオレはえっとねー文法は一番習ったやつと思う、教科書とか、授業では、  
でも単語たまに単語一番はたぶん話し方、たぶん(うんうんうん) 友達からもらった、それからたぶん  
ちょっと関西弁っぽい、そんな表現は、結構
- K8: それはめっちゃわかる

K5 でコーキは日本語から英語にシフトしているが、C4 で「like 話し方」とコルの発話に英語が使われたから、それを契機に、その同じ like を用いて、英語にシフトしたとコーキは FI で述べた。しかし、その後、C5 でコルはスウェーデン語にシフトした。ここでスウェーデン語を用いた理由について、コルはスウェーデン語を話したらもっと会話が面白いと思ったこと、スウェーデン語で話しているうちに考えがまとまってきたので、日本語で話した方がコーキがもっと理解できると思い、C7 で日本語にシフトしたと FI で述べている。コーキはコルのスウェーデン語は数語デンマーク語から推測してわかる程度であったが、コルがスウェーデン語で言い淀んでいるのを察して、K7 で英語で反応し、コルもコーキにわかるようにと C7 で日本語にシフトしているのがわかる。そして、自分の日本語について、「単語は授業や教科書から学んだが話し方は友だちから学んだから関西弁っぽい」ことについて、伝え、K8 は「それはめっちゃわかる」と共感を示している。そして、その後、その例や、表現の覚え方についてコルが話そうとしているのが以下である。

- C8: でもたとえば、最初にそれは一緒に温泉に行ったときは、そんな、えっと・・・
- K9: You could understand
- C9: Yeah you explain it to me very clear. Also like ehh... because it was a fun moment
- C10: like いい思い出だから I remember it very well, Of course like だいたい私の先生はめっちゃ  
すきけど It's like sometimes just for study is つまらない ion

<sup>5</sup> スウェーデン語。本稿ではスウェーデン語とデンマーク語のみに和訳をつける。

C11: memory to remember it's also like 自分で教科書で多分勉強したら、私はそんなちょっと単語を覚えたかったら like maybe I do like Mental image try to remember like maybe memory palace like you think of place that you know based that

C12: For example could Like Silkeborg Højskole in remember 単語 in different places Like in 食堂、映画館 in put of words and good way to remember the word,And you can create word can do in your head that's also I remember like image when we talked about 温泉 You talk me だるい for example ,It's for a first time for me だるい you gonna teach me like you teach me わるぐち,だるい means

K10: But I don't think it's bad word, like negative word

C13: 先生はわるい It's like わるぐち Also 風、っぼい、ish

C14: After that I used っぼい、all the time it's like 日本っぼい、スウェーデンっぼい、like this is デンマークっぼい

K11:それはめっちゃ納得いく

K12 : デンマーク語でも単語、その習った場面もちろんやっぱり教科書で学ぶ、あの一言語とその友達との会話で学ぶ言語は全然違うから そのやっぱりいっぱい友達から学んだものはいっぱいあるからやっぱりネイティブスピーカーとの会話はめっちゃ大事なんかな

C15 : ねーねーねー

K9 でコーキが英語にシフトしたのはコルが日本語で「えっと・・・」と言葉につまっていたからと FI で述べている。そこでコルは英語にシフトし、主に like の後に続けて日本語を用いて、1 ターンの間で英語と日本語を用いて話している。そして、行った場所とそこで学んだ単語や表現を結びつけて覚えることばの記憶方法について説明し、例えば温泉に行ったときにコーキが「だるい」を用いたことから、初めて「だるい」について学んだことや、「っぼい」という表現を知ってから色々なところで使った経験について話し、コーキが K11 で「それはめっちゃ納得いく」と共感を示し、K12 で自分のデンマーク語習得のことにも触れながら、友だちとの会話で学ぶ会話が大事であるという、コルが言いたかったことを日本語で伝え、コルも C15 で「ねーねーねー」と嬉しそうに共感を示している。そして、次に言語を学ぶ醍醐味について意気投合し、会話が一区切りつくのが以下のパートである。

K13 : なんか別ものかもしれないけど

C16 : 確かに、ちがうねー環境もある

K14:もちろんもちろんその文法の知識が必要やし

C17 : はいはいはい、それは一番楽しいやつ、like

K15 : 言語を学ぶ

C18 : if you manage feel like a native speaker feels like you are part of the group like you don't feel outsider like make

K16 : you don't have a same language

C19 : even like a can like a not my Japanese has like Even like スウェーデンっぼい touch have

K16 : yeah we have accent. If you Like I can communicate at same like speed like same style like have a joke like with friend I think sill fine like I don't know about you but for me. I cannot I can still not concern about having perfect Japanese.I think some people worry about 文法 of course it's important but I don't care about grammatic

C19 : You can have friends, Most important is fun

K17 : It's not like Conversation, Actually I don't mind

K18 : Usually It's not like a conversation

C20 : たしかに、たしかに yeah

コルは C18 で、ネイティブグループの一員であると感じられることや、ソトの人間であることを感じない、友人との会話を完璧な文法でなくても楽しむことが重要であることについて、意気投合しているが、それらは英語で話されている。FI において、コルは日本語で説明することは難しいことから英語を用いたこと、コーキもそのように思い英語を用いたと述べている。二人の言語選択がマッチして、言いたいことを伝え合っていることがわかる。

### 3.2 事例 2 : 日本語 L1 話者とデンマーク語 L1 話者の会話事例

この事例は、英語とデンマーク語による会話である。コーキを (K)、クリスを (CR) で表示する。トピックは主に、日本の食べ物の話、これまでに日本で行ったことのある場所、来日した理由、在留カード、デンマークの王位交代、天皇制についてであったが、トピックの難易度によって言語を選択していることが窺われた。

表 1 コーキとクリスの会話トピックと主な使用言語

	トピック	主な使用言語
1	日本の食べ物	デンマーク語
2	これまで日本で行った場所	デンマーク語
3	日本に来た理由	デンマーク語
4	在留カード	英語
5	デンマークの王位交代	英語
6	天皇制廃止	英語
7	歴史の勉強	デンマーク語

以下に主な使用言語がデンマーク語の例として日本の食べ物についてのトピックでの会話をあげる。コーキは時折「I don't know」(K19), 「you have to」(K23), 「you know」(K24)などと英語で反応しているが、日常的なトピックである、日本で食べた食べ物については、デンマーク語で会話が進んでいることがわかる。

K19 : I don't know... så du har ikke spist sushi? (まだすしたべてない?)

CR1 : i har noget, der minder om sushi, men som ikke er sushi, som hedder noget andet. Jeg

ved ikke helt. Jeg har sikkert spist [sushi], men jeg ved ikke helt, hvad det er. Jeg har sikkert spist det. (すしじゃないけど、すしのようなものを食べた。よくわからないけど。たぶんすし、だけどよくわからない、たぶん食べたんだと思う)

K20 : så du har ikke [spist sushi]? (すしは食べてない?)

CR2 : jo, jeg har [spist sushi]. Jeg har spist sushi mange gange, flere gange før.

(食べたことがあるよ。(デンマークでは) たくさん、何回か食べた)

K21 : nej, i japan. (日本ではない)

CR3 : i japan? (日本で?)

K22 : ja (そう)

CR4 : nej. Jeg har kun været her en uge, men jeg kan ikke... jeg fører, hvad hedder det, rejsejournal, men jeg har ikke rigtigt fået skrevet i den de sidste par dage.

(いや、日本にきてまだ一週間、だからまだ、旅行日記をここ数日何も書けていないから)

K23 : you have to (書かなきゃ)

CR5 : ellers kan jeg ikke huske, om jeg har spist sushi. (覚えてない、すしを食べたかどうか)

K24 : you know... two weeks ago, Lin og hendes kæreste var i Japan, og de sagde, at de ikke kan lide sushi (知ってると思うけどリンと彼氏が日本にきて、すしがきらいって言ってたよ)

CR6 : de kan ikke lide sushi? (すしがすきじゃない?)

K25 : ja, japansk sushi. (そう、日本のすし)

次に、主に英語を使用して会話が進んでいた王位交代のトピックから天皇制廃止についてのトピックの会話例を以下に示す。ここでは、コーキが「退位」というデンマーク語がわからず (K26)、クリスが「abdicerede?」と補足して提示した後 (CR7)、それを今度は英語で何というのかとクリスに聞いている (K27)。そして、コーキは K30 でその語彙を取り入れて用いて、王位の退位についてのトピックについて話を継続しているのがわかる。このトピックに必要な語彙である abdicerede を知り、すぐに使用し、自分のものになっているのが窺える。しかし FI ではこのトピックについてはデンマーク語では難しいので英語にしたことを述べている。クリスは CR13 において、日本が天皇制を廃止しなかったことについて質問したが、コーキは日本の歴史についての話題は苦手だと英語でこのトピックについてのブレイクダウンを見せている。そのためクリスは天皇制についての話題を深めるのではなく、デンマーク語で日本の歴史が苦手な理由は高校で世界史をとったことや、世界史ではデンマークの歴史が扱われないことについてトピックをうつし、この話題については天皇制廃止よりも簡単なためデンマーク語でも大丈夫だと思ったからデンマーク語を用いたと FI で述べた。つまり、トピックによって、使用言語を選択した結果 TL が生じたと言えよう。

K26 : dronning Margrethe... hvordan kan jeg sige det (マーガレット王女はどうやって・・・)

CR7 : abdicerede? (退位?)

K27 : how do you say it in English?

CR8 : abdicated

K28 : so now her son is the king of Denmark? I saw a video from DR TV, and there was so many people in front of Christiansborg.

CR9 : ja, det var en ret stor begivenhed. Vi har ikke haft en tronskifte i 50 år. De fleste monarker bliver siddende, indtil de dør. They do not abdicate, they die (そう、かなり大きな出来事だった。この 50 年間、王位が変わることはなかった。ほとんどの君主は死ぬまで在位する。).

K29 : Is it the first time?

CR10 : i dansk historie? Jeg tror, at det er anden gang. (デンマークの歴史で? これで 2 度目だと思う。)

K30 : I think, it is the same way in Japan (not king, but emperor), but this time he abdicated too. He abdicated his position to his son or something.

CR11 : who did, the Japanese emperor?

K31 : yes, he is still alive, but he is not the emperor anymore

CR12 : does the Japanese emperor hold any political power?

K32 : no, he does not hold any power. People decided, after the war, that he should not hold any power and should only be a symbol of the people.

CR13 : i afskaffede ikke monarkiet? (You did not abolish the monarchy? 天皇制を廃止しなかったの?)

K33 : i dont know. But, you know, I am really bad at history, especially Japanese history.

CR14 : det er Yuri også. Hvordan kan det være? (ゆりもだね、なんで??)

K34 : da jeg gik på højskole, var der kun verdenshistorie.(高校で世界史をとったからね)

CR15 : nå, du havde verdenshistorie? (じゃ、世界史を勉強したんだね)

K35 : men ikke så meget om dansk historie. (でもデンマークの歴史はなかった)

CR16 : Danmark blev ikke nævnt (i verdenshistorien)? Heller ikke Søren Kierkegaard? (デンマークについては言及がなかった? キルケゴールについても言及がない?)

## 5. おわりに

本研究では、ふたつの事例から、エコトーンとしての TL をみることにより、多様で生き生きとしたコミュニケーションの様相が明らかとなった。その要因には相手を思いやる気持ち、生き生きとした面白さを出そうとする気持ち、トピックに合わせ話しやすい言語レベルの言語を使用することなどが要因として関わっていることが窺えた。そこには互いに相手を思いやる気持ちが見てとれる。エコトーンとしての TL がもたらすものとして、互いをもつ言語リソースが尊重されている感覚がそれらの言語を持つヒトとして認め合い、受け入れられている感覚をもたらし、ラポールが構築されながら、会話が進められていると言えるのではないだろうか。そして、それらが会話としての面白さや豊かさにつながっているのを感じられた。今回の事例はそれぞれが複言語話者であると同時に互いが日本と北欧の移動し、マジョリティ、マイノリティの立場を経験している者同士、互いを思い合いながら会話を楽しんでいるのを感じられた。第二言語習得研究においても環境と L2 (L3, L4) 習得や使用の関係を生物学的に解釈するエコロジカル・アプローチがとられている (Van 2000)。環境が提供するものに生物が見出す意味や価値をアフォーダンスと言うが、移動するヒトが環境によって身につけた言語を用い、コミュニケーションの結果生まれる TL はまさにアフォーダンスと言えるのではないだろうか。

最後に TL を用いた会話についてどう思うかクリスに尋ねると「極めて自然なこと」という答えが返ってきた。TL は複言語話者にとってごく自然な現象、しかし、AI には真似できない人間の営みと言えるであろう。

## 参考文献

- 奥野由紀子(2024)「デンマークで経験したフォルケ・ホイスコーレでの共同生活」『人文学報』520-7, 1-14.
- 加納なおみ(2016)「トランス・ランゲージングと概念構築—その関係と役割を考える—」『母語・継承語・バイリンガル教育 (MHB) 研究』12, 77-94.
- 佐野静代(2005)「エコトーンとしての潟湖における伝統的生業活動と『コモンズ』—近世～近代の八郎潟の生態系と生物資源の利用をめぐる～」『国立歴史民俗博物館研究報告』第123集, 11-34.
- 森本幸裕(2002)「生息環境・生息地」亀山章編『生態工学』朝倉書店, 45-54.
- García, O. (2009) *Bilingual Education in the 21<sup>st</sup> Century: A Global Perspective*. Wiley-Blackwell.
- García, O., & Wei, L. (2014) *Translanguaging*. Palgrave Macmillan.
- Otheguy, R., Garcia, O., & Reid, W. (2015) Clarifying translanguaging and deconstructing named languages: A perspective from linguistics. *Applied Linguistics Review*, 6 (3), 281-307.
- Van Lier, L. (2000) From input to affordance: social-interactive learning from an ecological perspective. In J. P. Lantolf (ed.), *Sociocultural Theory and Second Language Learning*. Oxford: Oxford University Press, 245-5.

追記：本研究に協力してくれた友人達に感謝申し上げます。また、本研究は24H00090、23K21940の助成を受けている。